

2027年3月期 第1四半期

Fly to the next stage!

決算説明資料

ヤマシンフィルタ株式会社
2026年8月7日



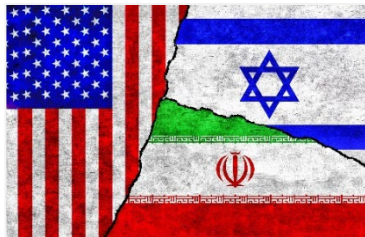
| エグゼクティブサマリー

- ◆ 2027年3月期第1四半期の連結売上高は過去最高を更新
- ◆ 建機用フィルタ事業の四半期売上高は堅調な新車需要を背景に過去最高を更新、利益面では外部要因による補給品の翌四半期への後ろ倒し等により減益
- ◆ エクイティストーリー「YAMASHIN FILTER VISION 2030」の実現に向け、機能素材事業セグメントを立ち上げ、アパレル向け製品供給開始も、先行投資フェーズが継続

事業環境	2027年3月期第1四半期 業績動向	2027年3月期 期初予算
市場 建機用フィルタ エアフィルタ ビジネスモデル別 ライン 補給 地域別 日本 北米 欧州 中国 アジア 主要原材料 エネルギーコスト 高止まり 高止まり	連結売上高：54億5百万円 前年同期比：6.1%増収 連結営業利益：4億86百万円 前年同期比：26.2%減益 ※自己資本比率：74.6% 建機用フィルタ 48億50百万円 前年同期比：+6.5% エアフィルタ 5億55百万円 前年同期比：+2.8%	連結売上高：225億60百万円 前期比：7.7%増収 連結営業利益：28億25百万円 前期比：9.0%増益 ※自己資本比率：74.7% 建機用フィルタ ・ライン品需要は堅調に推移する見通し ・補給品は引き続き底堅く推移する見通し エアフィルタ ROICの改善が急務 機能素材 機能テキスタイル分野、アパレル市場への製品供給開始

- ◆ 中東情勢の長期化懸念はあるものの、現時点における当社グループへの業績影響は軽微
- ◆ 2026年7月に発表された通商法301条に基づく関税の影響も軽微の見通し

建機用フィルタビジネスにおける中東情勢 想定リスク



影響の可能性がある分野

製造/輸送

製造拠点

日本



フィリピン



ベトナム



想定リスク		対象拠点	影響度	想定影響額	対応策
生産	・ 原材料価格高騰	日本 フィリピン ベトナム	小	軽微	サプライチェーン見直し 原材料在庫保有増加 (+1か月分程度) 製品在庫保有増加 (+1か月分程度) 価格転嫁
	・ 物流費高騰 原材料調達遅延 製品出荷遅延				
営業	・ 工場稼働リスク	日本 アメリカ ベルギー タイ 中国	小	軽微	サプライチェーン見直し 製品在庫保有増加 (+1か月分程度)
	製品出荷				

| 2027年3月期 第1四半期実績

2027年3月期第1四半期実績（2026/4-6）

PLセグメント別（連結、建機、エア、機能素材）

- ◆ 建機用フィルタ事業の四半期売上高は堅調な新車需要を背景に過去最高を更新
- ◆ 利益面では外部要因による補給売上高の翌四半期への後ろ倒し等により一時的に減益
- ◆ エアフィルタ事業の受注は回復傾向、直販体制の確立により収益改善を本格化

		2026/3期 Q1 実績	2027/3期 Q1 実績	前年同期比	
		金額（百万円）	金額（百万円）	増減額（百万円）	増減率
売上高		5,096	5,405	309	6.1%
	建機用フィルタ※	4,555	4,850	294	6.5%
	エアフィルタ	540	555	15	2.8%
	機能素材	—	0	0	—
営業利益（セグメント利益）		659	486	△172	△26.2%
	建機用フィルタ※	739	602	△136	△18.5%
	エアフィルタ	△80	△24	55	—
	機能素材	—	△91	△91	—
営業利益率		12.9%	9.0%	△3.9Pt	
経常利益		647	480	△167	△25.8%
経常利益率		12.7%	8.9%	△3.8Pt	
四半期純利益		417	337	△80	△19.2%
四半期純利益率		8.2%	6.2%	△2.0Pt	
為替レート（円） （期中平均値）	USD	144.6	159.5	14.9	10.3%
	EUR	163.8	185.4	21.6	13.2%

※ 「建機用フィルタ」には、建機用フィルタ、産業用フィルタ、プロセス用フィルタを含んでおります。

売上高（製品別）

- ◆ 北米におけるAIデータセンタ需要により、ライン品の売上高が大きく伸長、補給品需要も堅調に推移するも、外部要因による翌四半期への後ろ倒し等により一時的に減収
- ◆ エアフィルタ事業の受注は回復傾向、直販体制の確立により収益改善を本格化

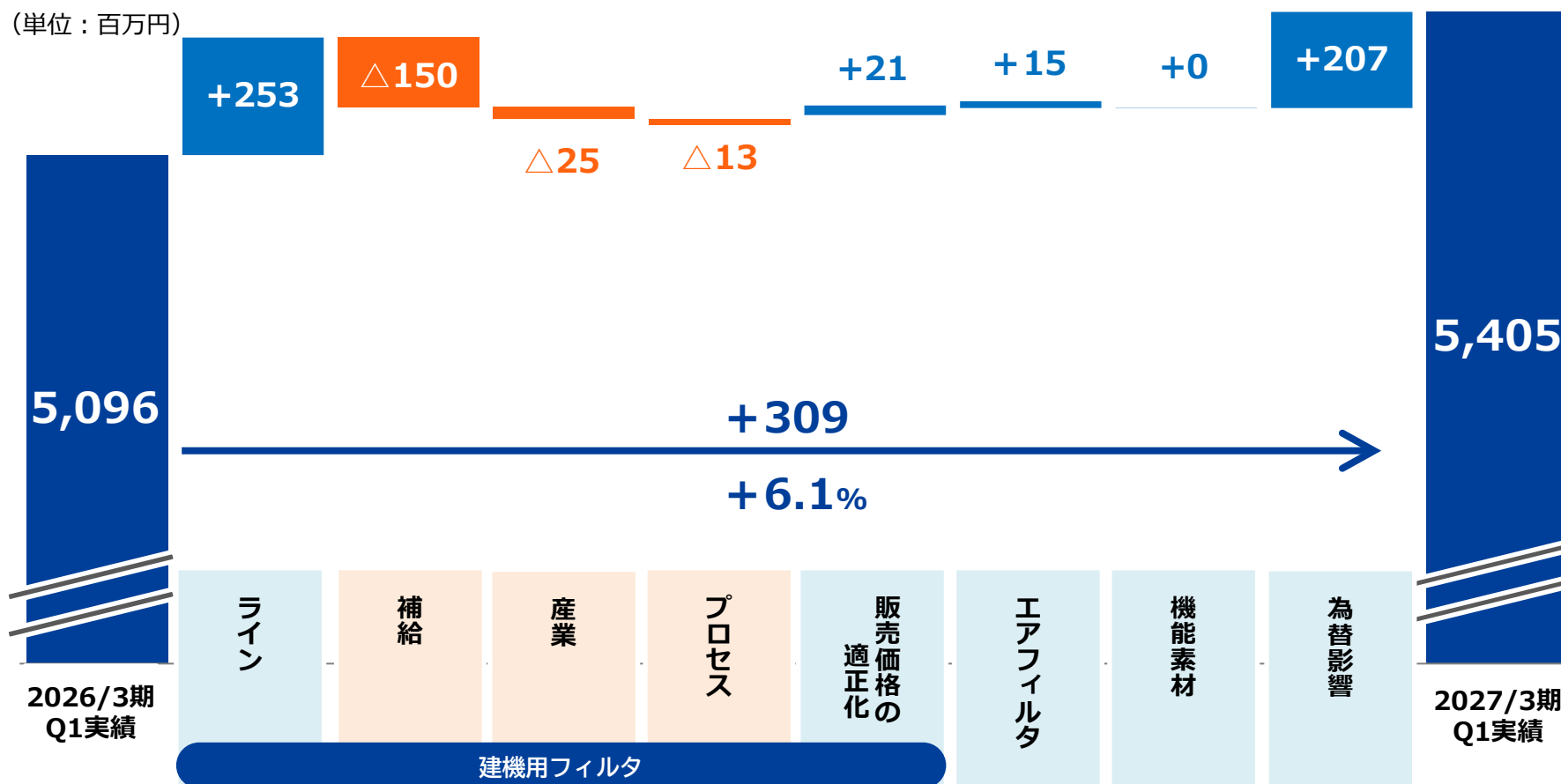
■ 製品別売上高

		2026/3期 Q1 実績	2027/3期 Q1 実績	前年同期比	
		金額（百万円）	金額（百万円）	増減額（百万円）	増減率
建機用フィルタ		4,184	4,508	323	7.7%
	ライン品	1,630	1,975	345	21.2%
	補給品	2,554	2,532	△21	△0.8%
産業用フィルタ		190	165	△25	△13.2%
プロセス用フィルタ		180	175	△4	△2.4%
建機用フィルタ 合計		4,555	4,850	294	6.5%
エアフィルタ		540	555	15	2.8%
機能素材		—	0	0	—
売上高合計		5,096	5,405	309	6.1%

2027年3月期第1四半期実績（2026/4-6）

売上高増減グラフ（前年同期比）

- ◆ 建機用フィルタ事業における新車需要は堅調に推移し大幅な増収、補給品需要は堅調に推移するも、外部要因による翌四半期への後ろ倒し等により一時的減収
- ◆ エアフィルタ事業については、受注は回復傾向、直販体制の確立により収益改善を本格化

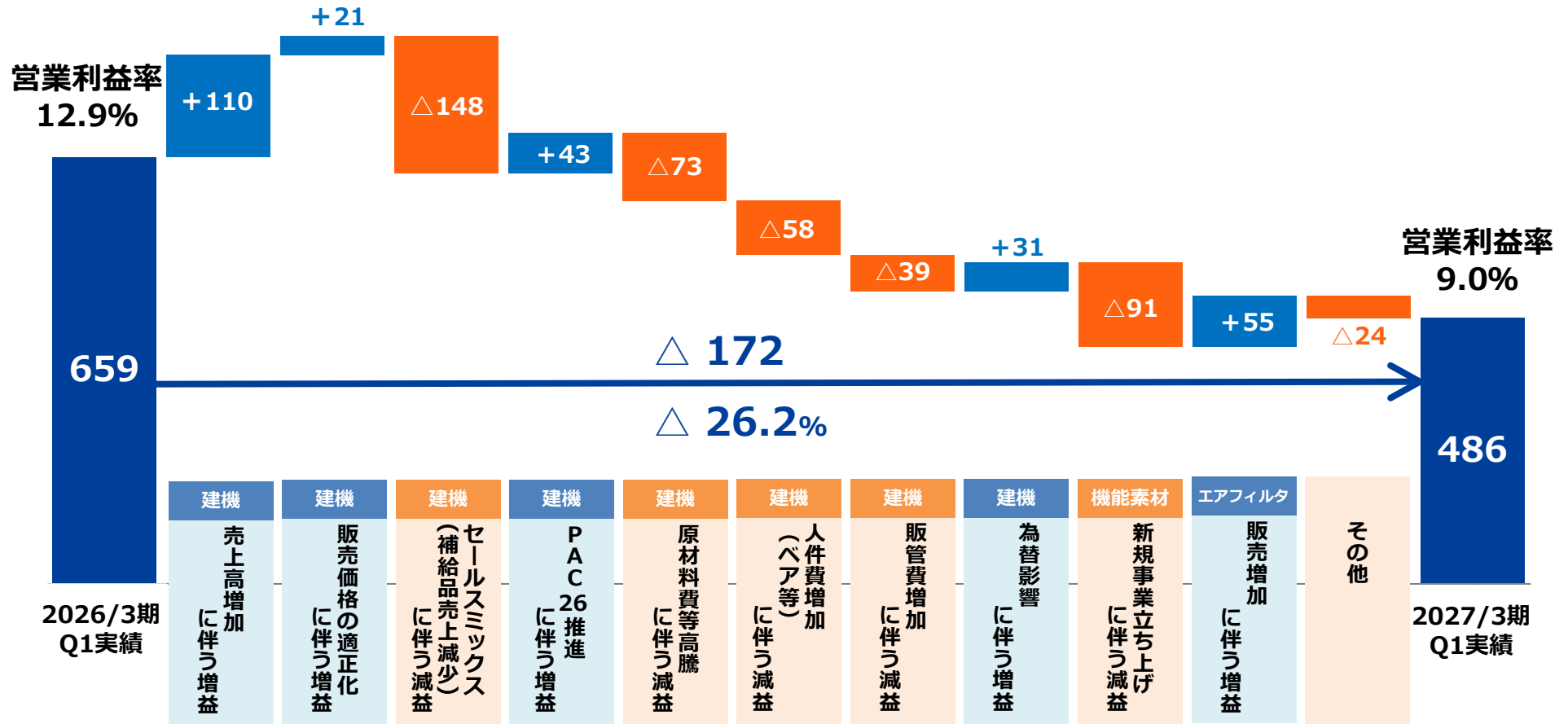


2027年3月期第1四半期実績（2026/4-6）

営業利益増減グラフ（前年同期比）

- ◆ 建機用フィルタ事業における補給品売上高の外部要因による翌四半期への後ろ倒し、新規事業立ち上げに伴う先行投資継続により、営業利益の伸長は一時的に鈍化

（単位：百万円）



2027年3月期 通期業績見通し

2027年3月期見通し（2026/4-2027/3） PLセグメント別（連結、建機、エア、機能素材）

- ◆ 中期経営計画は順調に進展、新規事業立ち上げに伴う先行投資・コスト増を見込むが、確定受注残高は2四半期連続過去最高を更新しており、創業以来最高の連結業績を更新見通し
- ◆ 2027年3月期見通しは2026年5月発表時から変更なし

		2025/3期 実績	2026/3期 実績	2027/3期 期初予算	前期比
		金額（百万円）	金額（百万円）	金額（百万円）	増減額（百万円）
売上高		20,104	20,941	22,560	1,618
	建機用フィルタ※	17,489	18,654	20,200	1,545
	エアフィルタ	2,615	2,286	2,330	43
	機能素材	—	—	30	30
営業利益（セグメント利益）		2,630	2,592	2,825	232
	建機用フィルタ※	2,554	2,713	3,190	476
	エアフィルタ	75	△120	5	125
	機能素材	—	—	△370	△370
営業利益率		13.1%	12.4%	12.5%	0.1Pt
経常利益		2,669	2,535	2,775	239
経常利益率		13.3%	12.1%	12.3%	0.2Pt
当期純利益		1,723	1,718	2,005	286
当期純利益率		8.6%	8.2%	8.9%	0.7Pt
為替レート（円） （期中平均値）	USD	152.6	150.8	155.0	—
	EUR	163.8	174.8	180.0	—

※ 「建機用フィルタ」には、建機用フィルタ、産業用フィルタ、プロセス用フィルタを含んでおります。

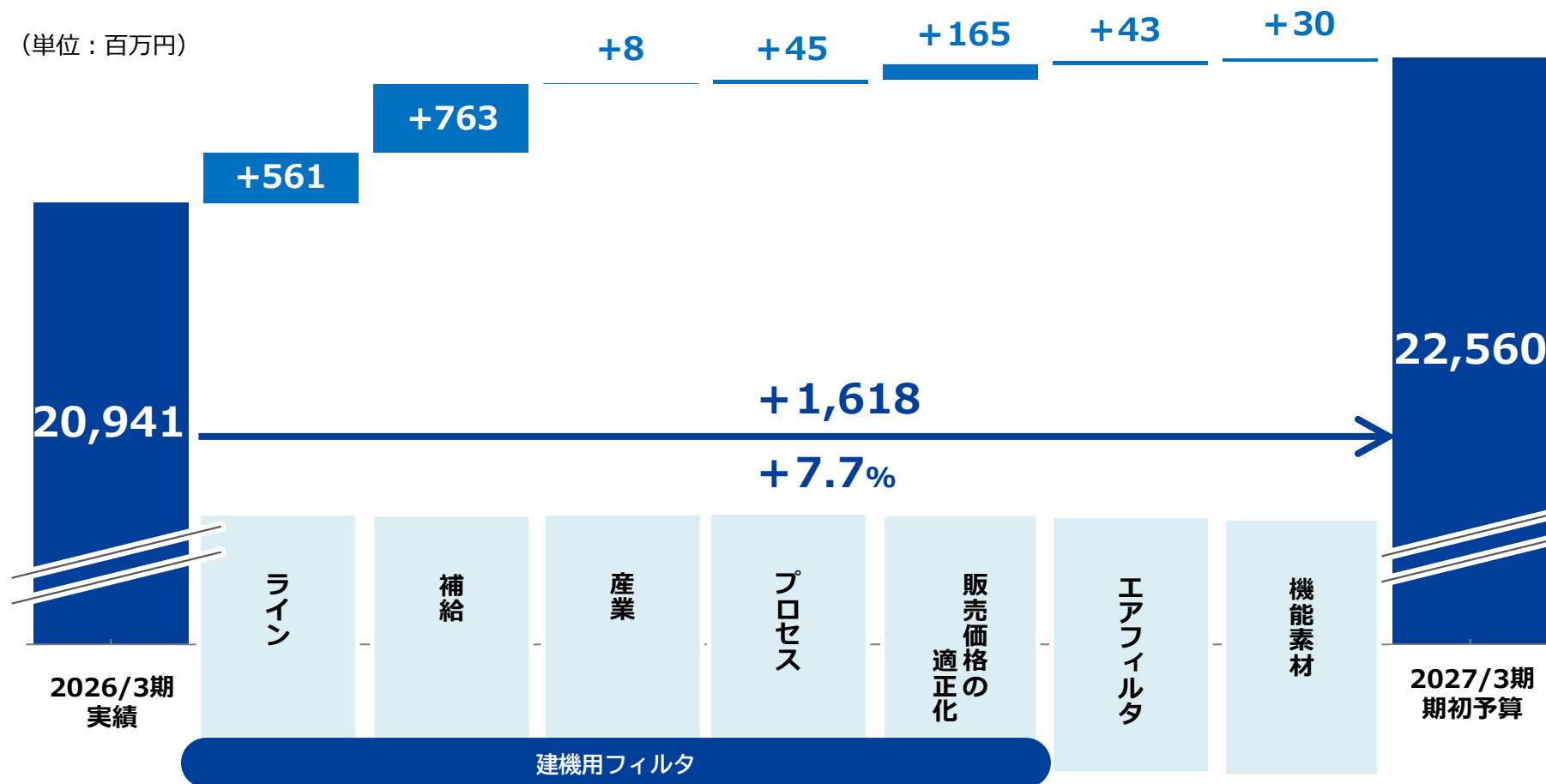
- ◆ 新車需要は引き続き堅調に推移し、補給品は第2四半期より回復
- ◆ 高付加価値製品の供給によるシェア拡大戦略により、ライン品、補給品ともに増収見通し
- ◆ 新規事業である機能素材セグメントにおいては、アパレル分野への製品供給を開始

■ 製品別売上高

		2025/3期 実績		2026/3期 実績		2027/3期 期初予算		前期比	
		金額 (百万円)	構成比	金額 (百万円)	構成比	金額 (百万円)	構成比	増減額 (百万円)	増減率
建機用フィルタ		16,080	80.0%	17,210	82.2%	18,695	82.9%	1,485	8.6%
	ライン品	5,599	27.9%	6,898	32.9%	7,429	32.9%	531	7.7%
	補給品	10,481	52.1%	10,311	49.2%	11,265	49.9%	953	9.2%
産業用フィルタ		708	3.5%	772	3.7%	781	3.5%	8	1.1%
プロセス用フィルタ		699	3.5%	670	3.2%	722	3.2%	51	7.7%
建機用フィルタ 合計		17,489	87.0%	18,654	89.1%	20,200	89.5%	1,545	8.3%
エアフィルタ		2,615	13.0%	2,286	10.9%	2,330	10.3%	43	1.9%
機能素材		—	—	—	—	30	0.1%	30	—
売上高合計		20,104	100.0%	20,941	100.0%	22,560	100.0%	1,618	7.7%

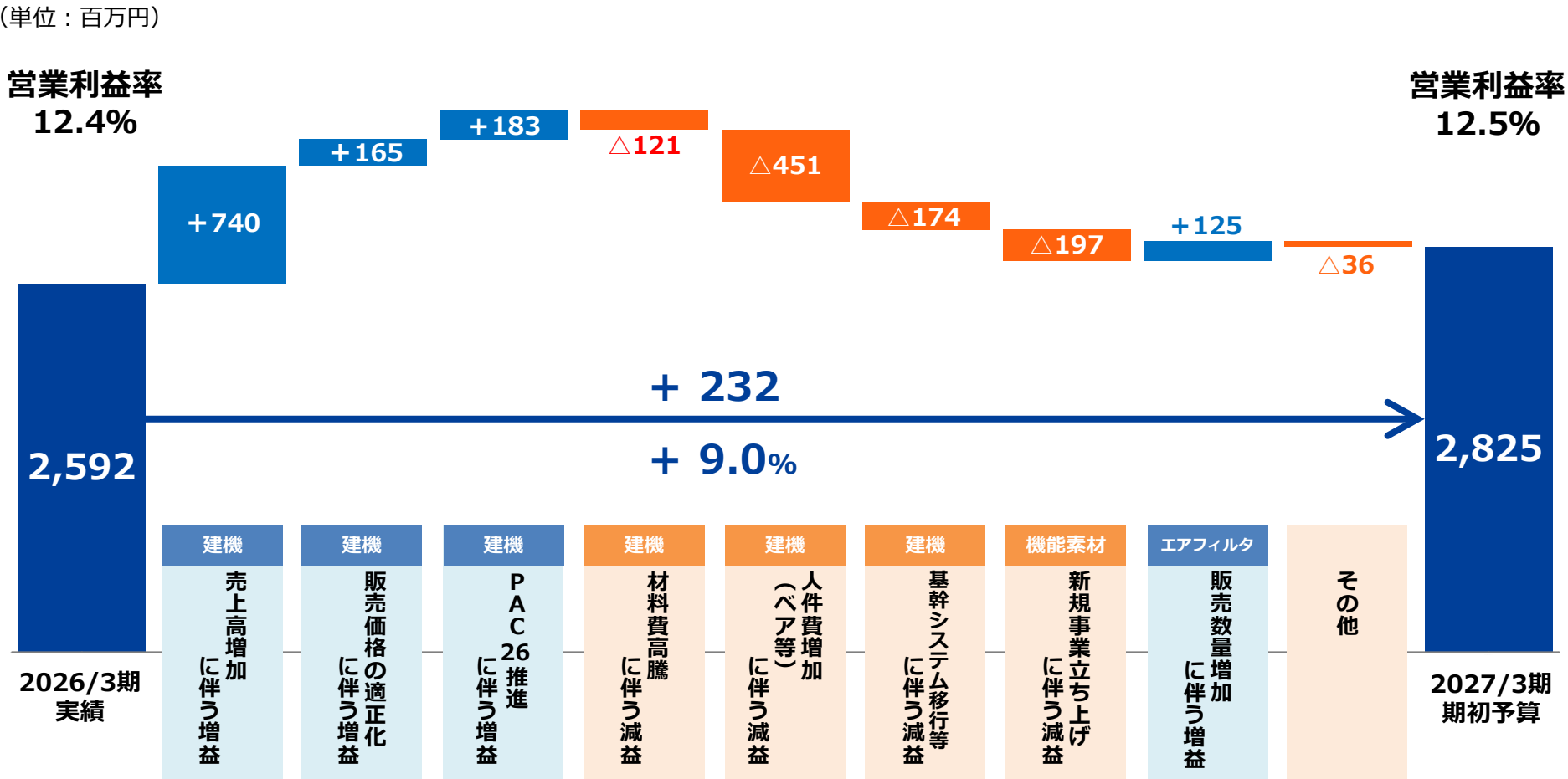
- ◆ 建機用フィルタ事業における新車需要回復や高付加価値製品の供給によるシェア拡大戦略により、ライン品は増収、補給品も北米中心に第2四半期より増加する見通し
- ◆ エアフィルタ事業においては、基幹システム入れ替えに伴う出荷遅延の影響は沈静化、新規直販体制の強化による収益性の改善を図る

（単位：百万円）



2027年3月期見通し（2026/4-2027/3）
営業利益増減グラフ（実績比）

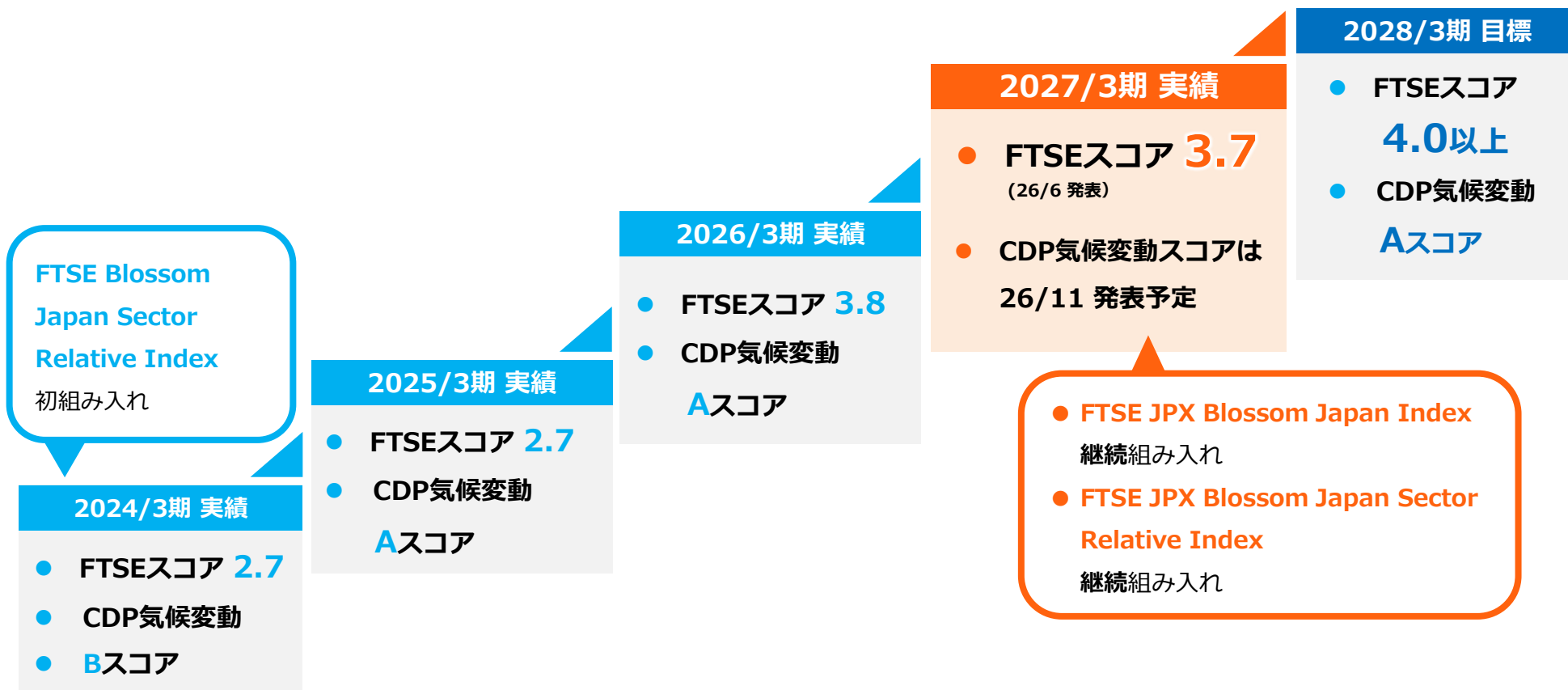
- ◆ 新規事業立ち上げに伴う先行投資・コスト増を販売数量の増加、原価低減によりカバーし、創業以来最高の連結業績を更新見通し



* 2026年3月期第2四半期より、海上運賃の増減については売上高の増加に伴う増益に含めて表示しております。

2027年3月期第1四半期 非財務情報

- ◆ FTSEスコアは継続して高い水準を維持し、「FTSE JPX Blossom Japan Index」の構成銘柄に2年連続で選定されるとともに、「FTSE JPX Blossom Japan Sector Relative Index」の構成銘柄に4年連続で選定



市場環境及び中期経営計画の進捗状況

建機用フィルタ市場を取り巻く外部環境

- 地域ごとに濃淡あるも需要は堅調

- ◆ 堅調な北米市場は、データセンタ建設や関連インフラ投資が需要を牽引
- ◆ アジア市場は、石炭需要に弱含みの傾向も、その他の分野は底堅い需要を維持
- ◆ 地域の濃淡はあるが、需要環境において大幅な変化はなく、堅調維持

2026年3月期

2027年3月期 1Q実績

2027年3月期 見通し

日本

新車需要の回復により前年比増加

公共投資は安定
新車需要は堅調で前年比微増

公共投資は安定
資材、労務費高騰影響により
需要は横ばいを想定

北米

関税・為替の動向は不透明
AIデータセンタ需要
インフラ投資の活発化により
前年比増加

AIデータセンタ需要増により
新車、アフターマーケット需要は好調
により前年比増

AIデータセンタ需要増により
関連インフラ投資も順調推移
新車、アフターマーケット需要は好調

欧州

主要国の需要減により
アフターマーケットは
前年比減少

中東情勢の長期化懸念による
得意先の在庫保有高増より前年比増

環境規制に伴う買い替え需要増により
新車需要は回復基調

アジア

インドネシアにおける
資源価格の低迷により
アフターマーケットは前年比減少

インドネシア顧客の
在庫削減が一巡して、オーダー回復
前年比増

インドネシア政府の取り決める
採掘量制限はあるものの、
底堅い需要あり

中国

不動産市況は低迷するも
鉱山機械の新車需要の増加により
前年比増加

不動産市況の低迷は継続
鉱山機械の新車需要は増加傾向
前年比増

不動産市況の低迷は継続
鉱山機械の新車需要は堅調維持

建機用フィルタ市場の需要動向

- 受注は安定推移、需要は堅調を維持

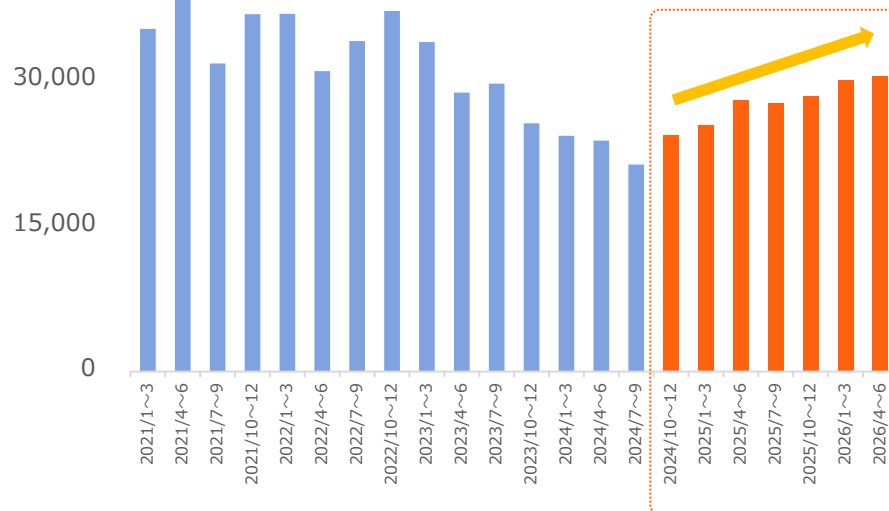
- ◆ 新車の生産台数及び計画は、引き続き増加傾向
- ◆ 確定受注残高は、2四半期連続過去最高を更新
- ◆ 北米市場を牽引役に、ライン品・補給品の売上は四半期推移で順調に成長

主要建機メーカー合計生産実績 (四半期推移)

生産台数は高水準を維持

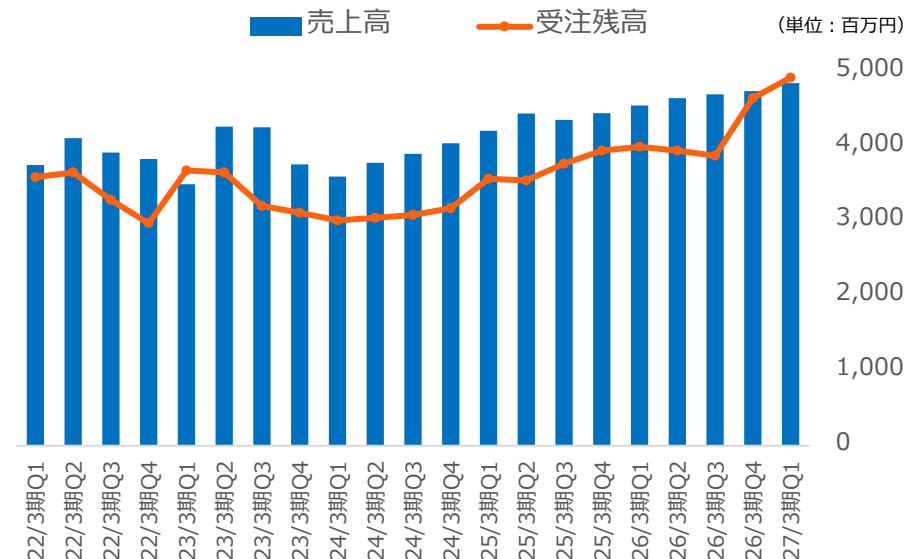
(単位：台)
45,000

※主要6社10%以上

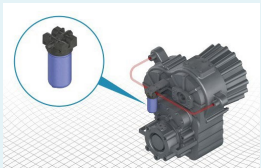
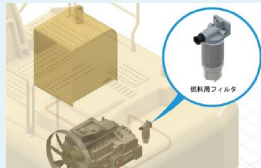
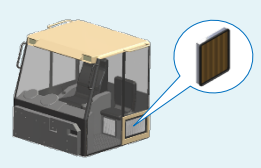
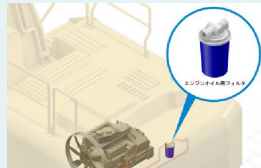
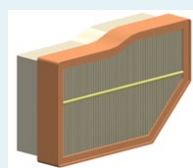


建機用フィルタ売上高と確定受注残高 (四半期推移)

堅調な需要を背景に 受注残高は2四半期連続過去最高更新



- ◆ 油圧用フィルタなど得意な製品群を中心にモデルチェンジを確実に獲得
- ◆ 新規製品のシェア獲得戦略は計画通りに進捗中

製品 顧客	※油圧用フィルタ	トランスミッション用 フィルタ	燃料用フィルタ	キャビン用 フィルタ	エンジンオイル用 フィルタ	エンジン用 エアフィルタ
						
A社	◎	△	◎	◎	△	△
B社	○	◎	△	△	△	△
C社	○	△	△	△	△	△
D社	○	-	△	△	△	△
E社	◎	△	△	△	△	△

◎：シェア80.0%以上、○：シェア50.0%以上80%未満、△：シェア50%未満
※油圧用フィルタは、油圧ショベル、ホイールローダー、ブルドーザー、ダンプトラック、モーターグレーダー、クローラクレーン等の機種に搭載
※2024年11月に発表した中期経営計画から、集計対象機種を見直したため、表内のシェア表示が変更になっております。
※色付け部分はシェアの上昇を示す。

- ◆ 当社グローバルネットワークを活用したアフターマーケット活動が順調に進展
- ◆ 欧州でもアフターマーケット活動を展示会にて実施
- ◆ アジア・欧州合わせて4件のセミナー等に参加し、約440名へ啓発活動を実施

アフターマーケット向け啓発活動への評価

Bangkok Komatsu Sales Co., Ltd.様より表彰



受賞理由

コマツグループのタイ販売・サービス拠点であるBKS社より、当社の純正品啓発活動および販売促進への貢献が高く評価され、受賞に至った。2025年度はタイ全土14か所の販売拠点にて、販売員およびエンドユーザー約1,500名を対象にフィルタに関するセミナーを実施。知識共有を通じ、BKS社の提案力向上と販売活動強化に寄与した。

展示会での純正品啓発活動（欧州）



参加背景・成果

3年に1度開催されるイタリアの建機展「SaMoTer2026」において、欧州コベルコ建機（KCME）社との共同デモンストレーションを実施。

約100名のブース来場者に、純正品フィルタのろ過の工程を実演し、エンドユーザーに対して純正品の性能および使用によるメリットを訴求する貴重な機会となった。

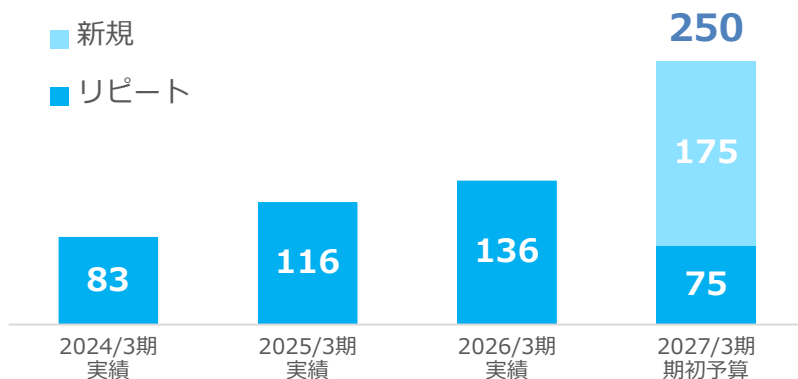
- ◆ ビル建物の獲得競争は変わらず厳しいが、業界のフィルタ需要は堅調を維持
- ◆ 再開発エリアの近隣地域も更新需要が活性化して、全体的な需要を底上げ

	市場概要	市場環境	
		26/3月期 実績	27/3月期 見通し
ビル・建物	オフィス・商業ビル等に設置されている外気取入れユニット・屋内空調等のエアフィルタ	→ フィルタ需要は堅調を維持しているが、低価格を求める顧客層が増加。	→ 再開発プロジェクトを背景に新設だけでなく、更新需要が増加。
一般工場	工場に設置されている外気取入れユニット・屋内空調等のエアフィルタ	→ 米国関税の不透明感から、稼働率低下。保守計画にもマイナス影響。	→ 新年度に入り新予算に移行、保守計画が通常サイクルに戻っている。
半導体工場	ケミカルフィルタの交換市場	→ 工場は増設傾向にあるため、需要は増加傾向にある。	→ 新築ラッシュは落ち着き、想定どおり今期から稼働局面に移行。
環境機器	一般家庭で使われる住宅空調・空気清浄機のエアフィルタ	→ 戸建住宅の減少傾向が継続。短期的には材料高騰がマイナス要因。	→ 人口減少につき需要減退は継続。住宅の高付加価値化が進む。
車両	鉄道等の空調用エアフィルタ 建機の粉塵用エアフィルタ	→ 交換需要は横ばいを維持。リニア部品は、開業が後倒しになった影響で、量産には至らず。	→ 交換需要は堅調を維持。新幹線の増便により増加傾向。リニア部品は時間がかかるが量産見通し。

- ◆ BtoB直販体制の営業活動は、順調に進捗して昨年を超える売上を達成見込み
- ◆ 他社では解決できないニーズに対し、顧客の探索・商談が進展
- ◆ ティア1メーカーの知見を活かして、製品供給や共同開発がスタート

BtoB直販領域における実績と計画

(単位：百万円)



新規受注増の要因

- 商流の最適化を提案し、顧客の要求へのレスポンスのスピードをより向上させることに成功した。
- 商流の最適化により顧客のコストダウンが可能。
- 顧客との距離が密接になり、相当品の提案が可能になった。

有望分野に対するアプローチ

産業機器分野



空調機器メーカー

空調ユニットに搭載される標準フィルタに採用。工場や倉庫で設置される。

- 当社の強みである深い技術知見を活かし、顧客の製品開発・設計段階から技術的相談に対応するアプローチを強化し評価をいただいた。

生産工程分野



製薬メーカー

製薬品質に関わる工程で空調コントロールするために採用。

- 有害ガス除去の実機試験を依頼元と共同で進めながら、データ収集と新製品開発に尽力。試験は完了し、2026年中の市場投入を目指し進捗中。

YAMASHIN FILTER VISION 2030 の進捗

－ 機能素材事業

7月29日に共同記者会見を実施

ミツフジとの戦略的アライアンス締結により
2つの分野における社会実装実現を目指す



ライフ
サイエンス
領域

精緻で着用のハードルの低い
「生体ウェアラブルデバイス」

産業資材
領域

シールド性と通気性を両立する
「次世代電磁波シールドフィルタ」

課題①

酷暑時代の到来と生体ウェアラブルデバイスの進化の必要性

酷暑日の増加

感覚に頼らない体調管理（常時モニタリング）が必須に

光学式（既存）

ウェアラブル
デバイスの
間口を開いた



電極式

正確だがこれまで
着用ハードル高



着用のハードルを下げつつ、
精緻に生体情報を取り込む

——— 酷暑・高齢化社会 ———

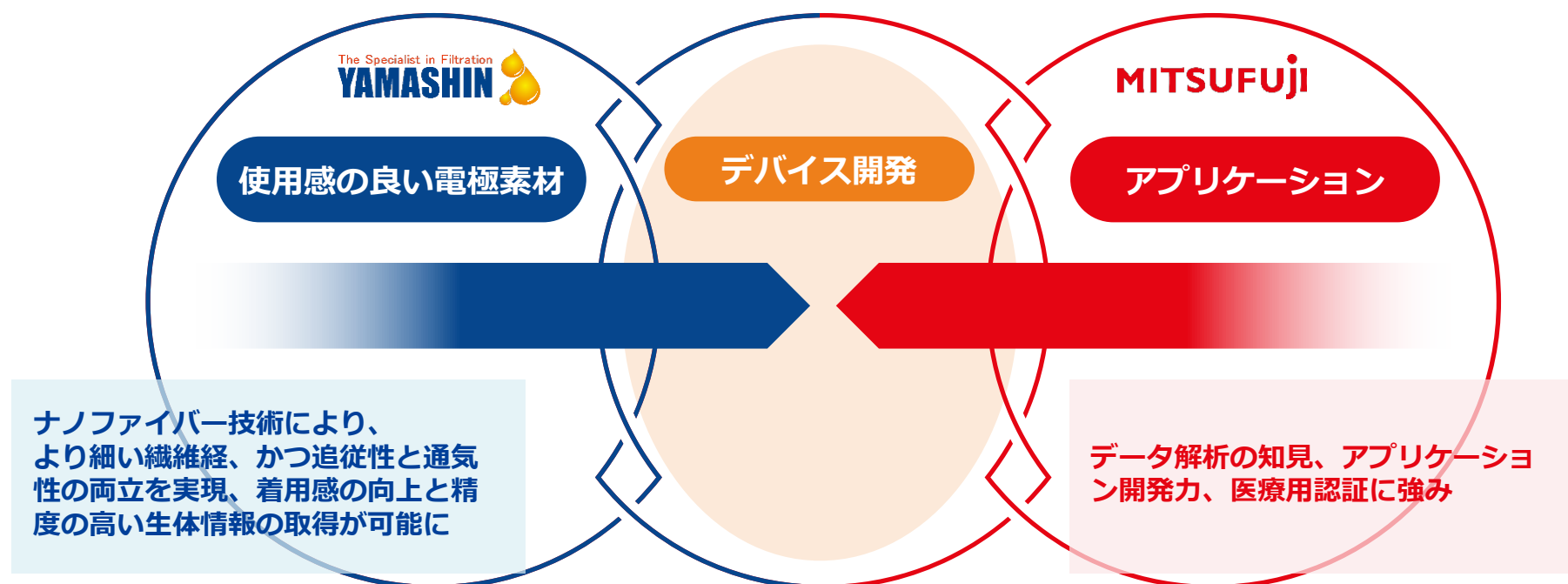
健康管理での活用が期待される

ライフ
サイエ
ンス領域

精緻で着用のハードルの低い

「生体ウェアラブルデバイス」

ヤマシンのナノファイバーによる快適な導電素材と、
ミツフジが持つデータ解析/アプリケーション開発力/医療用認証への知見を組み合わせ、
高性能で着用しやすい「生体ウェアラブルデバイス」開発に取り組む



課題②

電磁波干渉が抱える矛盾する課題、ノイズカットと放熱の実現

電磁波干渉の問題

シールド性能

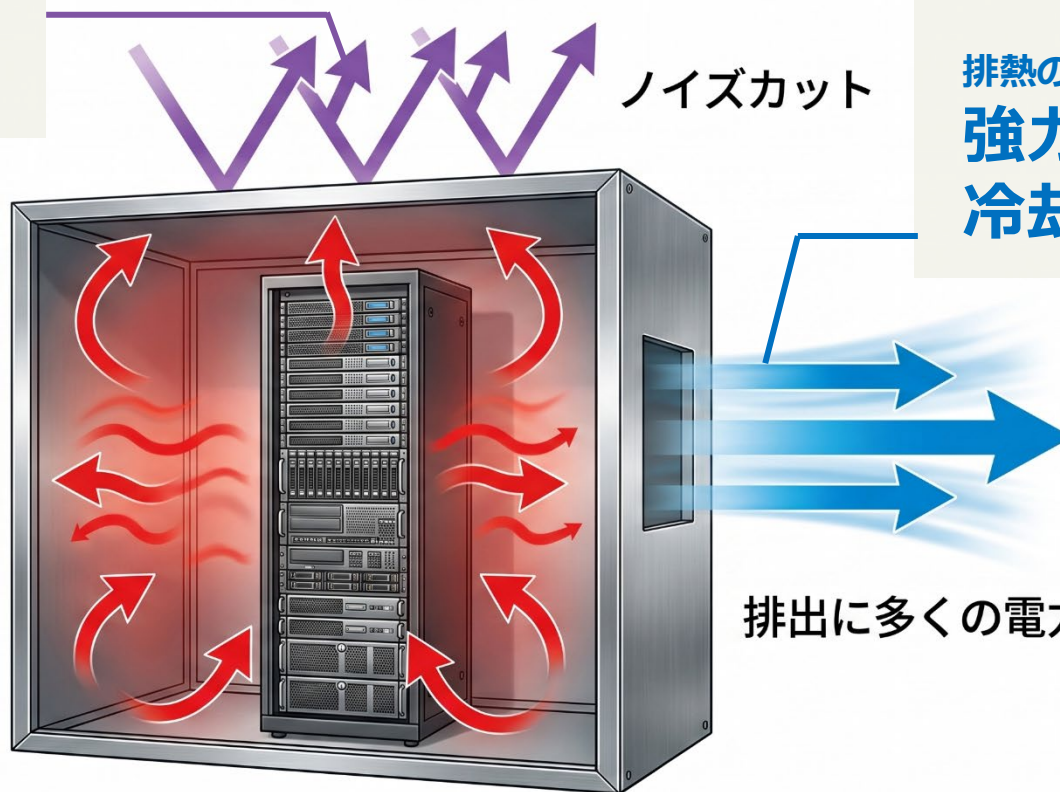
ノイズカット

排熱の問題

強力な
冷却システム

熱がこもる

排出に多くの電力を消費



産業資材
領域

シールド性と通気性を両立する

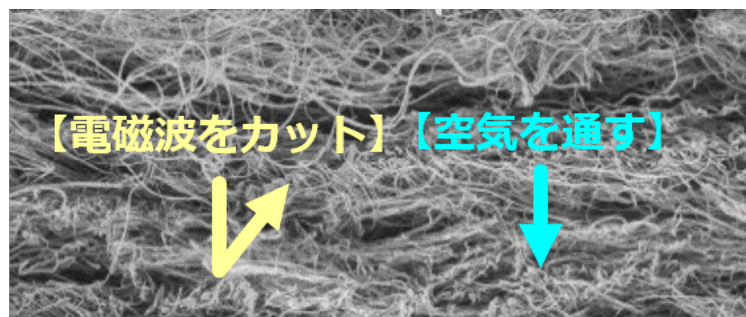
「次世代電磁波シールドフィルタ」

両社の持つ独自技術と、ミツフジの持つ実績と認知度を活かし
電磁波シールド領域への社会実装を加速



ナノファイバー技術

- ▶ 微細な繊維が入り組む構造で、効率的に電磁波をカットすると同時に、空気を通す通気性も確保



MITSU FUJI

繊維への独自加工技術と実績

- ▶ ナノファイバー繊維にほどこす加工技術
- ▶ それぞれの産業における実績、知見



参考情報

－2027年3月期 第1四半期

売上高（地域別）

- ◆ 北米におけるAIデータセンタ需要、中国におけるインフラ投資等を背景に新車需要は増加、補給品需要も堅調維持

■ 地域別売上高

		2026/3期 Q1 実績		2027/3期 Q1 実績		前年同期比	
		金額（百万円）	構成比	金額（百万円）	構成比	増減額（百万円）	増減率
建機用フィルタ※		4,555	89.4%	4,850	89.7%	294	6.5%
	国内	1,734	34.0%	1,814	33.6%	79	4.6%
	北米・南米	1,080	21.2%	1,107	20.5%	27	2.5%
	中国	403	7.9%	471	8.7%	68	16.9%
	アジア	863	17.0%	952	17.6%	89	10.3%
	欧州	449	8.8%	504	9.3%	55	12.4%
	その他（中東他）	24	0.5%	△0	△0.0%	△25	△103.8%
エアフィルタ（国内）		540	10.6%	555	10.3%	15	2.8%
機能素材（国内）		—	—	0	0.0%	0	—
売上高合計		5,096	100.0%	5,405	100.0%	309	6.1%

※ 「建機用フィルタ」には、建機用フィルタ、産業用フィルタ、プロセス用フィルタを含んでおります。

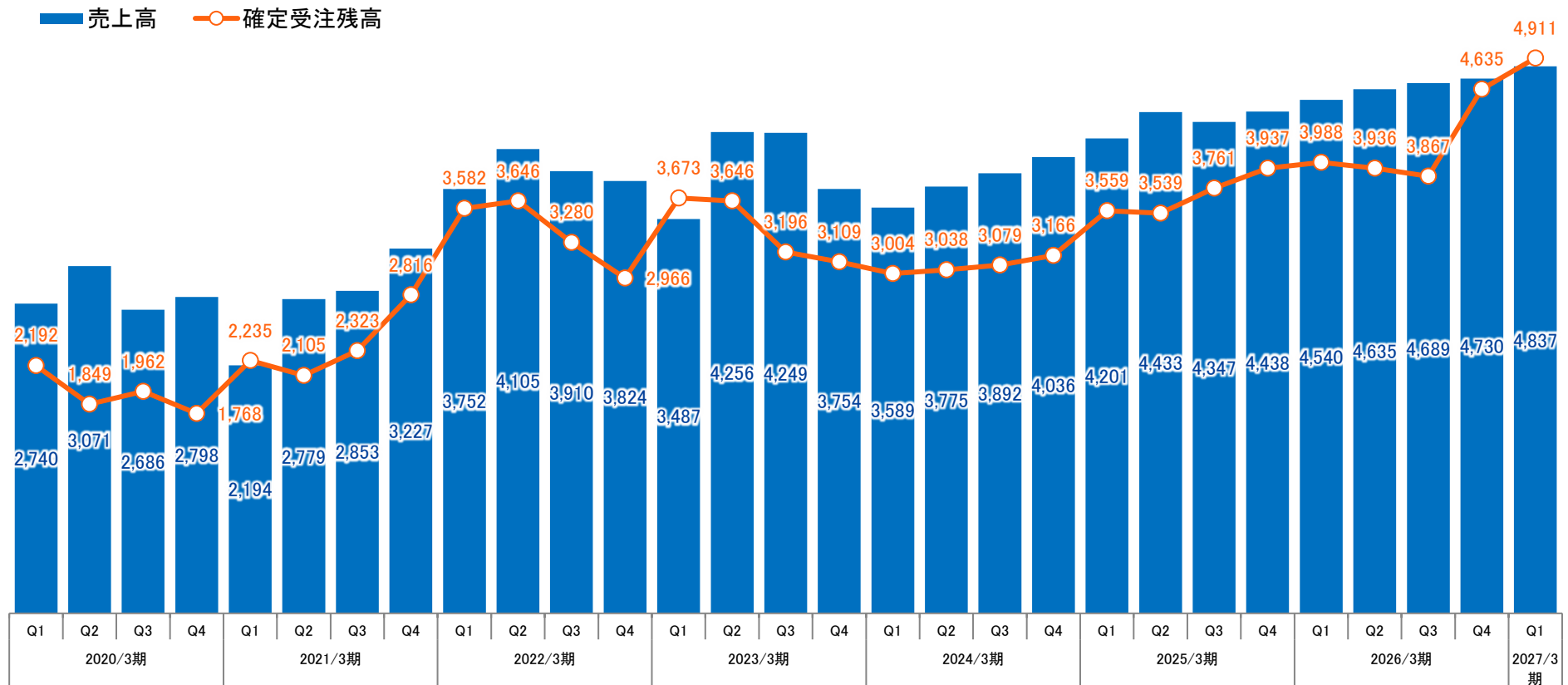
* 上記の地域別の数値は請求書送付先基準で集計しております。

* 従来「その他」に区分されていた南米に「北米」を加え「北米・南米」として集計しております。

確定受注残高と売上高の推移 (建機用フィルタビジネス)

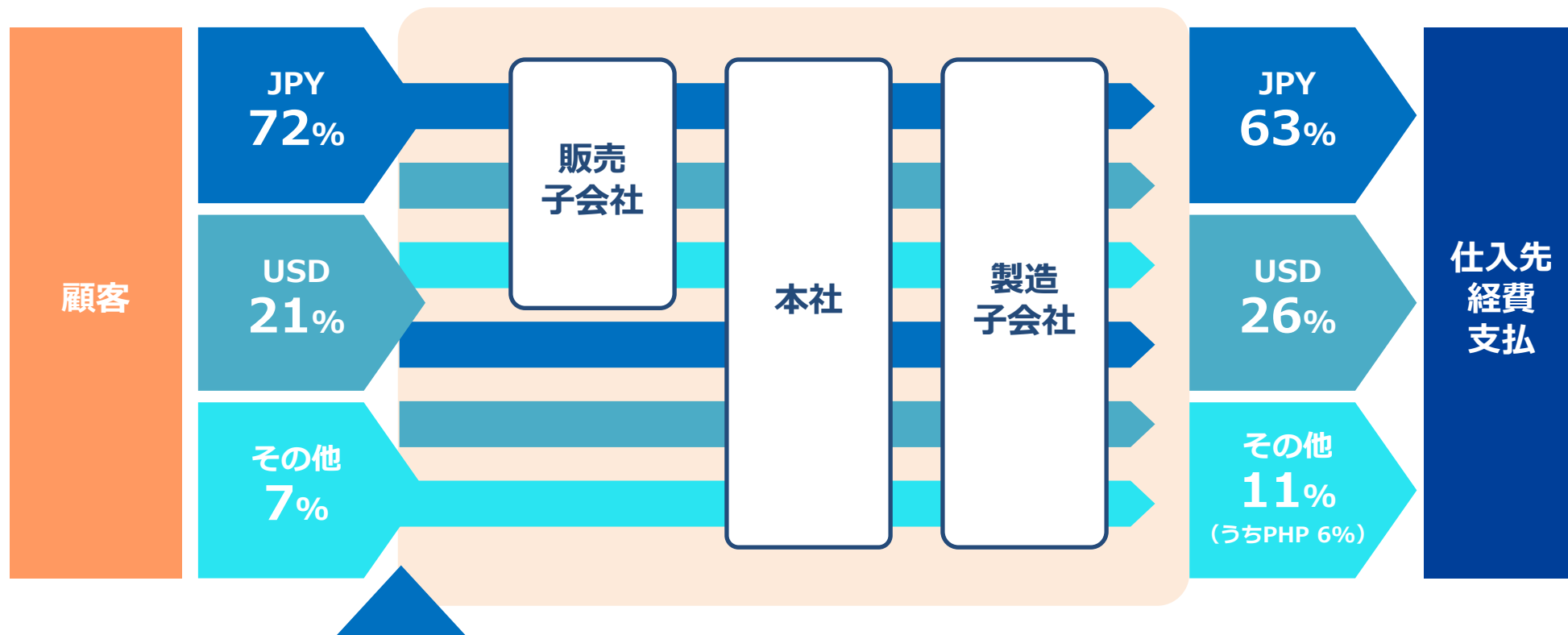
- ◆ 堅調な外部環境を背景に、北米市場におけるシェア拡大戦略、高付加価値製品の供給拡大戦略が功を奏し、2027年3月期第1四半期の確定受注残は過去最高水準を更新

(単位：百万円)



※ 売上高にはヘルスケア売上を含めておりません。

- ◆ 為替感応度は0.23%、営業利益への影響額は軽微

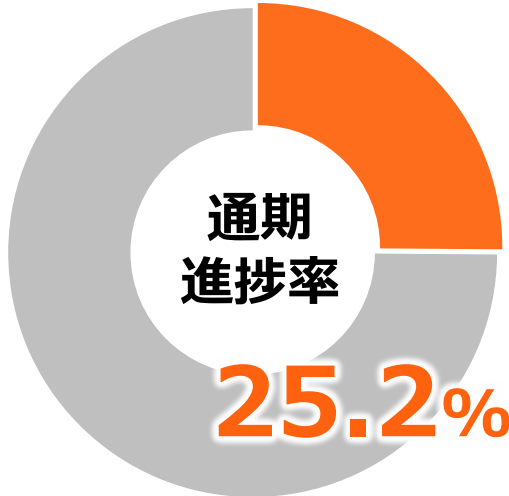
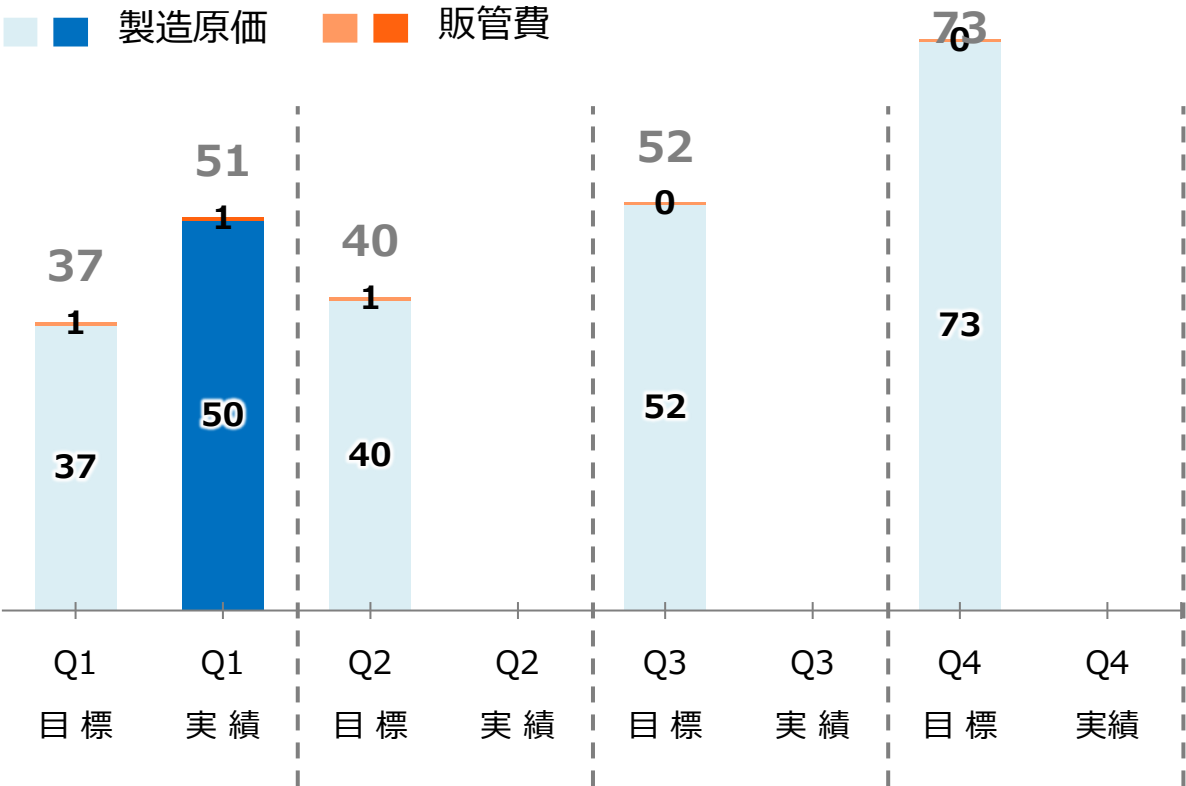


取引通貨の約7割は J P Y

◆ PAC26の取組みは着実に進展

■ 進捗状況（前期比）
（単位：百万円）

■ 製造原価 ■ 販管費



単位 百万円		通 期 標	通 期 績
PAC26	製造原価	201	50
	販管費	2	1
合 計		203	51

— 信州大学との共同記者会見

- ◆ 5月26日に信州大学との共同記者会見を実施
- ◆ 社会実装を宣言する「SHIN PROJECT」を開始
- ◆ 共同研究全体のコンセプトとVISION2030の3つの事業領域を組み合わせ、より具体的な社会課題に対する技術開発を進展させ、最速3年以内の社会実装を目指す

— SHIN PROJECT —



量産性に優れた
ナノファイバー製造技術をコアとした
世界トップクラスのフィルタ技術



ナノファイバーに
センシングやシールドなど
フィルタプラスアルファ機能を付与

■ 機能テキスタイル



- ▶ バイオマスエアロゲル
- ▶ PFASフリー撥水素材
- ▶ 高断熱素材による省エネ

■ ライフサイエンス



- ▶ 自己発電センサー
- ▶ ガス検知
- ▶ 生体センサー

■ 産業資材



- ▶ EMC素材
- ▶ 吸音素材



この資料に記載されている業績の見通し等将来に関する情報は、現在入手可能な情報に基づいて作成しております
実際の業績は市場動向や業績情勢等の様々な要因等によって異なる可能性があります

この資料に関するお問い合わせは ヤマシンフィルタ株式会社 コーポレートコミュニケーション部IR課 まで

TEL

045-680-1680

E-mail

ir@yamashin-filter.co.jp